

+ 命を守る！ 子どもの 事故予防

かけふだ・いつみ
掛札逸美

Profile

心理学博士。NPO 法人保育の安全研究・教育センター代表。健康心理学、特に子どもの傷害予防と安全の心理学を専門とする。



夏の2つの危険 「水」と「暑さ」から 子どもを守る

目の前で気づかないうちにおぼ溺れる…

子どもは水が大好き！ですね。水の怖さを知らず、興味しんしんで水に近づき、いろいろ試してみるのが子ども。でも、何か起きたときにどうすればよいかをまったく知らないのも子どもです。海や川だけでなく、お風呂で、プールで、毎年何人ものお子さんが亡くなっています。

乳幼児が水の近くや水の中にいるときは、絶対に目と手を離してはいけません。水深数センチの家庭用プールでも、目を離さないでください。米国の報告によると、溺死した子どもの9割には10代以上の付き添いがいたそうです。そして、全体の半数が大人から20m以内の場所で亡くなっており、保護者が子どもを文字どおり「見ている」前で、気づかないうちに溺死したケースすらあるそうです。「溺れたら、苦しそうにして手を上げて『助けて』と叫ぶはず」、これが大きな誤解だと、米国の水の事故予防専門家は書いています※1。

浮き輪にも危険なものが報告されています。子どもの足を入れて使う「足入れ浮き輪」はひっくり返りやすく、ひっくり返ったら、自力では元に戻れません。「浮き輪に入れているから」と、数分目を離れたすきに溺れるケースもあります※2。

熱中症にはいっそうの注意を

湿度と温度が上がるこれからの季節は、熱中症も起こります。子どもは、体温調節機能が未熟で熱が体内にこもりやすいえ、自分で脱ぎ着をしたり、水を飲んだりする機転もききません。遊びに夢中になっていれば、なおさらです。さらに子どもは身長が低いので、地表からの熱の影響を大人以上に受けます。大人の顔の高さで32度のとき、子どもの顔の高さでは約35度になるのだそうです（環境省の熱中症予防声かけプロジェクト・サイトから）。

そして、絶対にしてはいけないのが、子どもを車内に置いたまま、車を離れること。車内の温度は急速に上がり、春先でも熱中症による死亡事例が起きています。

人間は「つい」「うっかり」する生き物ですから、子どもの命を守るうえで、「目を離さない」「手を離さない」は決して効果的な方法ではありません。でも、夏の季節の危険2つ（水、暑さ）については、大人の努力と協力が必須の対策です。水の中で、暑さの中で、元気いっぱい遊ぶことは、子どもにとって不可欠であると同時に、どちらも命を奪う可能性のある危険だから、です。

★詳しくは下記URLをご参照ください。

※1 保育の安全研究・教育センター（翻訳記事）：

http://daycaresafety.org/ccd_safetyinfo.html#pool

※2 国民生活センター（浮き輪事故）：

<http://www.kokusen.go.jp/news/data/sn-20070921.html>